

第 26 回議会報告会 報告書

地域名	三谷地域		
年月日	令和 6 年 4 月 23 日 (火)	会場名	三谷多目的集会センター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参加数	男性 34 人	女性 4 人	合計 38 人
班 長	浄慶 耕造	司会者	浄慶 耕造
報告者	全員	書記	深澤 巧
班員名	浄慶 耕造、深澤 巧、瀬原 敬樹、田路 之雄		
	市 民		対 応
報告に対する質疑	① 市職員の定員数について、今後の定員数の基準値を 300 名とするとある。これまで令和 6 年度の当初で 275 人が目標定員でなかったのか。300 人が計画値になるのか。非正規職員は 300 人に含まれているのか。	① 会計年度職員数は別である。正職員数はこの 5 年間は 290 名ぐらいで推移している。社会的処方、デジタルなど市役所内の部署、業務が増え、公務員の定年延長制度が始まっている。保健師、土木技術職などの採用が困難になっている。人件費の抑制と職員の確保のバランスが必要として見直した基準値としている。	
	② 議会だよりの賛否一覧表をよく見る。議員は自分の賛否の意見を表明すべきだと思うが、どのように考えるか。	② おっしゃる通りだと思う。ご意見を参考にする。	
	③ 「人・農地プラン」の地域計画が 129 地区のうち、40 地区で協議されているということだが、順調に進んでいるということか。	③ 来年 3 月までを期限とした計画策定である。担当職員などを配置して進めるが、厳しい状況である。	
	④ 9 期の介護保険料はかなり抑制された保険料になっている。市では軽度の認定率が高くサービスの享受、事業所も多い。負担の額の上昇が善悪という議論でなく、介護サービスの満足度とのバランスという見方が必要である。計画策定のなか満足度の調査はされているのか。	④ 養父市は施設利用が多い。施設入所も相当程度かなっている。サービス量が多い反面、保険料は高くなっている。計画策定の中で満足度の声も多数寄せられているものと理解している。	

	市 民	対 応
意見交換会での質疑	<p>① 地域でも共有林が多い。県との分収造林契約のなかでカーボンオフセットの契約がある。</p> <p>オフセット契約が成立した場合、比率に基づき地元に取り分が還元されるのか。市が行うオフセット契約に地域の共有林は対象にならないのか。オフセット活用について地元でも研究したい。</p> <p>② 女性活躍について具体的にどのように推進していくのか。数値的な目標はあるのか。女性の参画促進について区にも割り当てが出てくるのか。</p> <p>③ 畑作で生計が立つようなアイテムがJAからも示されない。高齢農家は途方に暮れている。農家のことも考えてくれているな、という具体的で今をどうするかの方策を示してほしい。建屋の6次化センターの活用も考えてもらいたい。</p> <p>④ 畦畔へのムカデ芝植生が予算化されたのか。高齢農家でも草刈がなければ稲作りができる。神河町のほうでも区全体で実施されている。</p>	<p>① オフセット契約の詳細は承知していないが、県の方収造林事業は破綻状態となっている。</p> <p>共有林整備を前提にオフセット事業に提供するという発想は、期待の余地もあるかもしれない。今後思い切った施策をしないと山の管理は後手になるだけ。何かの糸口となる地域からの提案を出していくことは必要と考える。</p> <p>② 主たる狙いは、政治、行政への女性の参画、育成、意識喚起などをテーマに議論が進められている。審議会などへの委員登用を30%にすることが今年度の目標になっている。割り当てでなく公募の形でおこなわれると考える。</p> <p>③ 学校給食への地元野菜の提供を増やしていく政策がある。給食の需要と農家の供給とがマッチする仕組みが必要だ。やぶパートナーズがトヨタの販売店に野菜を供給している。今後、新しい販路を生み出していくことが必要である。</p> <p>④ センチピートグラスという芝の雑草抑制効果で草刈労力が大きく削減される。地域の農地を集約する際にも草刈労力が大きな課題になっている。5月に説明会、実証実験に取り組む農家を募られる。この地域でも試されたらどうか。</p>

	<p>⑤ ふるさと納税について、収入と使い道はどうか。返礼品はどのようなものが用意されているのか。</p> <p>⑥ 少子化の中で建屋小学校の特認校制度がいつまで続けることができるのか心配である。教育長は統廃合をしないといっているが全体が減っている。子どもたちが地域に残ってくれる方策を考えてほしい。特色のある学校づくりにについて議会からも提案してほしい。</p>	<p>⑤ 令和5年で見込2億5,000万円程度、6年度は3億円を見込んでいる。返礼品の基準が見直され減額になっている。但馬牛、ベニズワイガニが主な返礼品である。自主財源として多様な施策に使える。こども園の通園バスなどの更新にも使っている。今後は地道に返礼品などの開発に努力していくとのことであるが、寄付額の減少は懸案になっている。</p> <p>⑥ 建屋地域活性化委員会からも住宅が必要という声が上がっている。農村RMOという地域づくりを建屋、三谷が一緒になって取り組まれようとしている。こどもの確保、住宅建設、移住促進を進めていただきたい。議会も全面的に協力したい。</p>
<p>その他 (提言など)</p>	<p>① 多くの区が要望書を出しているがなかなか進まない。議会で、要望書のデータベース化が必要ではないか、という質問があった。その後、どのように当局は対応されたのか、議会は追跡し追及してほしい。</p>	<p>① 令和5年度でも各地区から159件の要望書が出ている。議会では一つ一つの回答や措置はわかっていない。市のホームページから要望書や回答内容の検索、閲覧ができるようにすることは必要なことである。</p>
<p>備考 なし</p>		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和6年5月15日

報告者 3班 班長 淨慶 耕造